

## 新型コロナワクチン Q&A

# あなたの疑問・不安に お答えします



新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。さいとう健は「一日でも早く全ての国民の皆様へ安全で有効なワクチンをお届けしたい。そのために全力で取り組んでいく」と決意しています。地元の皆様の安心のために、的確な情報をお届けすることは、地元選出の国会議員として重要な責任だと考えております。

そこで今回は、よくある素朴な疑問をQ&A形式でご紹介します。ぜひご覧ください。

### ワクチンの効果

Q.1

ワクチンの  
**予防接種**とは  
何ですか。



一般に、感染症にかかると、ウイルスや細菌など原因となる病原体に対する「免疫」(抵抗力)ができます。免疫ができると、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりします。このような体の仕組みを使って病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くしたりするのが予防接種です。

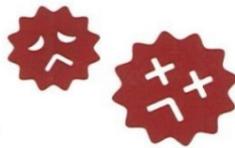
Q.2

どのような**効果**が  
期待されていますか。

新型コロナワクチンには、主に発熱やせきなどの発症や重症化の予防が期待されています。ワクチンが入った注射をしたグループでは、新型コロナウイルス感染症の症状が出た人の数が、ワクチンが入っていない注射をしたグループより95%少なかったとの報告があります(令和3年2月15日現在)。多くの方が接種すれば、重症者や死亡者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待できます。

Q.3

**変異株**には  
対応できますか。



一般に、ウイルスは絶えず変異をおこしていくもので、小さな変異でワクチンの効果がなくなるというわけではありません。ファイザー社のワクチンでは、変異株の新型コロナウイルスにも作用する抗体がつけられた、といった実験結果が発表されています。

Q.4

**安全性は?** 副反応も  
気になるのですが。

どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります。ワクチン接種では、体内に異物を投与するため、接種した所の腫れ・痛み、発熱、頭痛などが起こることがあります。接種後に、ワクチン接種と因果関係が不明なものも含めて、接種部位の痛みや、頭痛・倦怠感・筋肉痛等の副反応がみられたことが論文等に発表されています。米国でファイザー社の新型コロナワクチン接種後に報告されたアナフィラキシー(急性アレルギー反応)は、100万回あたり4.7例です。74%が接種後15分以内、90%が接種後30分以内に症状が現れています。また、接種会場には必ず医師がいますので、アナフィラキシーが起きたときには、その場ですぐに治療を受けることができます。

Q.5

**誰でも、**  
ワクチン接種  
できますか。



一般に、以下の方などはワクチンを受けることができません。

- ・明らかに発熱している方※1
- ・重い急性疾患にかかっている方
- ・ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症※2の既往歴のある方

※1 明らかな発熱とは通常37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

※2 アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

Q.6

接種で**注意すべき点**は  
ありますか。

一般に、以下の方は注意が必要です。

- ・過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- ・過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ・過去にけいれんを起こしたことがある方
- ・ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれのある方

また、新型コロナワクチンは筋肉内に注射するため、抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害(血友病など)のある方は、接種後の出血に注意が必要とされています。妊娠中、授乳中の方も、新型コロナワクチン接種を受けることができます。日本産婦人科感染症学会・日本産科婦人科学会は、「感染リスクが高い医療従事者、重症化リスクがある可能性がある肥満や糖尿病など基礎疾患を合併している方は、ワクチン接種を考慮する」と提言しています。

Q.7

ワクチン接種は、**必ず受けないと**  
いけないのですか。

ワクチン接種は、予防接種法に基づく「努力義務」であり、強制的に接種を行うものではありません。接種の対象となるのは、16歳以上の方です。なお、妊婦の方は、現時点で安全性に関するデータが不足していることから、「努力義務」の対象ではありませんが、希望すれば、ワクチン接種を受けることができます。授乳中の方も含め、ワクチン接種を受ける際は、主治医にご相談ください。また、16歳未満の子供は、大人と比べて新型コロナウイルスに感染しにくく、感染したとしても重症化は見られず、国内において亡くなったという報告もありませんので、ワクチン接種の対象になっていません。